

「荃南小学校における種子島宝満神社の御田植祭等の伝承活動」

1 学校名

南種子町立荃南小学校

2 学年・人数

全学年 27人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成27年3月末～4月2日 荃永研修センター・・・御田植舞

平成27年9月4～18日 総合的な学習の時間（本校校庭）・・・棒踊り

平成27年9月17日 体育の時間（本校校庭）・・・ひょうたん踊り

平成27年9月16日～10月28日

音楽の時間（本校音楽室・体育館）

・・・国民文化祭フィナーレ歌唱

平成27年11月2日（月） 国民文化祭フィナーレ歌唱リハーサル

(2) 発表の日時・場所

平成27年4月3日（金） 種子島宝満神社の御田植祭（荃永）

平成27年9月20日（日）第59回荃南小学校・荃永地区公民館合同運動会
（本校校庭）

平成27年10月4日（日）赤米稲刈り（荃永）

平成27年11月3日（火）国民文化祭（町営グラウンド）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

種子島宝満神社の御田植祭（たねがしまほうまんじんじゃのおたうえまつり）

国指定重要無形民俗文化財 平成28年1月15日答申

(2) 由来

南種子町荃永に鎮座する宝満神社で行われる行事で、赤米、御稻などと呼ばれる赤みを帯びた米の苗を神田に植えて豊作を祈願する農耕行事である。神田に隣接した自然の小高い山での祈祷で授かった苗を神田に植えており、我が国の農耕行事の古い姿がうかがわれ、また、赤米という独特の米を儀礼的に用いることや田植え後に舟田で御田植舞が奉納されることなど、地域的特色も豊かである。

(3) 構成

宝満神社に伝わる御田植祭は、神社で古くから厳しく守り伝えられてきた赤米を伴った祭りで、苗取り、御田の森の赤米の祭り、オセマチの赤米のお植え、周辺の御田の御田植え、舟田での赤米の舞、直会（ナオライ）の順で行われる。児童が参加するのは、御田植え（おたうえ）と宝満神楽（ほうまんかぐら）で、4年生以上の男子のみの参加となる。

5 保存会や地域との連携の具体

赤米の田植えと稲刈りは、宝満神社の宮司からの依頼を受けて、学校から保護者に参加を呼びかけている。実施日はそれぞれ春休みと休日になるので、保護者引率で参

加している。また、宝満神社の願成就で奉納される郷土芸能「棒踊り」と「ひょうたん踊り」の伝承活動も行っている。学校では、これらの伝承を総括して地域と連携した行事と考えている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

「棒踊り」と「ひょうたん踊り」は、茎永地区との合同運動会で発表する。それぞれの踊りの地域の伝承者と連絡を取り、運動会当日の3週間前から放課後や体育の時間を使って練習している。「棒踊り」は4～6年生、「ひょうたん踊り」は1～3年生が発表している。また、今年度は、赤米大使の歌手・相川七瀬さんと茎南小全児童が国民文化祭フィナーレで、相川さんの作詞した“ヒカリノミ”を合唱し、赤米御田植祭を全国的にアピールする場となった。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）





8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 国民文化祭では、茎南小全児童と歌手の相川七瀬さんが、“ヒカリノミ”を合唱した。会場で観ていたたくさんの方々から、「歌手と歌えてすごいですね。素晴らしい合唱でした。」と賞賛された。
- 「私は古代米の赤米を守る大使をしていて南種子町のトンミー大使という名前で交流をさせてもらっています。（中略）今日のイベントのメインは南種子町の小学生たちとヒカリノミをステージで一緒に歌うこと（中略）風に乗ってみんなの声が島全体に響き渡り、途中で感動で泣きそうになりました。」
(相川七瀬さんオフィシャルブログより)
- 赤米の御田植の儀式には、様々な決まりごとがあり、その一つ一つに意味がある。神楽舞も棒踊りもひょうたん踊りも仕草や囃しに伝統の深さを感じ、観る者の心を揺り動かす。地域の方々は、それを次の世代にしっかり伝承し、児童もその受け継ぐものの大切さを自覚している。舞や踊りの練習に不満を言う児童を見たことがない。学校としても、地域の伝統を守り受け継いでいくことのすばらしさを教えていきたい。
- 国の重用無形民俗文化財に指定されたとテレビで聞いたとき、「やったあ。」と思った。これからは、今まで以上にたくさんの方が観に来られるだろうから、恥ずかしがらずに一生懸命踊りたい。（5年男子）
- 中学生のお兄さんたちと踊りの練習をするのは楽しい。本番は顔に墨を塗られて恥ずかしい気持ちもあるけど、地域の伝統なので、守り続けたい。（6年男子）